

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0470
施設名	向陽保育園
施設所在地	東京都国立市谷保6746
法人名	社会福祉法人向陽学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音（太鼓）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
向陽保育園の伝統となっている向陽太鼓。毎年運動会の数カ月前から取り組み披露している。その中で、年長児からもっと太鼓をやりたいという子どもたちの声、年長児の模倣あそびで音の出る場所を探してバチのようなものを見つけて叩く姿が年中から乳児に見られていた。この各年齢層の太鼓への興味関心をその場限りにせずに常に触れ合っていける環境を整えたいと考えた。
また、0歳児から5歳児にかけて、1年を通して太鼓などに触れる（聞く、叩く）ことを通して体力や運動機能の向上、脳の活性化やリラックス、協調性や向上心の育成、伝統文化への理解の深まりを強めていく。

2. 活動スケジュール

【太鼓練習】6/30・7/16・8/25・9/11・10/10・11/27・12/15・1/30・3/16
【マイバチ作り】8/20・9/19
【発表】11/1

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（準備物）
胴長太鼓・平太鼓・締太鼓・樽太鼓

（環境設定）
【5歳児】月1回の太鼓練習（地域太鼓連盟監修）
マイバチ作り
取り組みを保護者に発表
【4歳児】月1回の太鼓練習（地域太鼓連盟監修）
次年度へつなげていく
【3～0歳児】5歳児の太鼓練習の見学
大きな太鼓、小さな太鼓をいつでも叩けるように配置

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

5歳児が主体となって取り組む太鼓活動において、十分な台数を確保することで一人ひとりが音を奏でる機会を最大化した。この環境は4歳児以下の園児にも好影響を与え、年長児の姿を模倣して楽しむ「まねっこ遊び」へと発展し、異年齢間の自然な交流を促すきっかけとなった。また、地域の太鼓連盟から指導者を招き、専門的な技法や礼法に触れる機会を設けた。これにより、地域文化への理解を深めるとともに、世代を超えたつながりを構築した。活動が深まる中で、5歳児から「自分専用のパチが欲しい」という意欲的な声が上がった。これを受け、単なる道具の用意に留めず、木の種類や特性について学ぶ「木育」を実施。子どもたち自らが材料選びから関わることで、道具への愛着と自然への関心を育む貴重な経験となった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

活動を重ねる中で、子どもたちは本物の太鼓ならではの音や振動を全身で感じ、音への興味関心をさらに深めていった。「もっと叩いてみたい」「かっこよく演奏したい」「自分だけのパチが欲しい」など、自ら意欲的な言葉が多く聞かれるようになった。

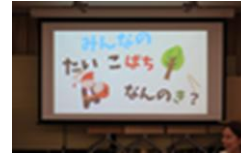
地域の太鼓連盟の指導者から専門的な演奏方法や礼法を学ぶことで、太鼓を大切に扱う気持ちや仲間と気持ちを合わせて演奏することの大切さにも気づく姿が見られた。5歳児は互いの音を聴き合い、「今の音そろったね」「もう一回やってみよう」と声を掛け合いながら、一つの演目を作り上げる喜びや達成感を味わうことができた。

また、保育者は子どもたち一人ひとりの思いや気づきを受け止め、挑戦したい気持ちを大切にしながら環境を整えた。子どもたちの「自分だけのパチをつくりたい」という声から、木の種類や特徴を知る機会を設け、自ら素材選びに関わる経験につなげたことで道具への愛着や自然への関心も育まれた。

年長児の真剣に演奏する姿や園内に響く太鼓の音は、3・4・歳児だけでなく乳児クラスの子どもたちにも大きな刺激となり、自由遊びの中で太鼓をたたいたり、年長児の動きをまねたりする姿が多くみられた。

「次は僕たちの番だね」と進級への期待を口にする子どももあり、異年齢であこがれや意欲が自然につながっていった。

太鼓の音は地域にも響き、外での練習が始まると立ち止まって聴いていく方の姿も見られた。そして運動会で堂々と演奏する子どもたちの姿に保護者や地域の方々から大きな拍手が送られ、子どもたちは自信と達成感を得ることができた。保護者からも「子どもの集中して取り組む姿に感動した」「成長を感じた」といった声が寄せられ、子どもたちの学びや育ちを共有する機会となった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の活動を通して、子どもたちの「もっとやってみたい」「自分でも挑戦したい」という思いを大切に受け止め、環境を整えることが、主体的な探究活動につながることを改めて実感した。本物の太鼓や地域の指導者との出会いは、子どもたちの興味や意欲を大きく引き出し、技術の習得だけでなく、礼法や仲間と気持ちや音を合わせる喜びなど、多様な学びへと広がっていった。また、年長児が意欲的に取り組む姿は年下の子どものたちのあこがれとなり、異年齢での自然なかかわりや「次は自分たちもやってみたい」という期待につながっていることを実感した。子ども同士が育ちあう環境を整えることの大切さを改めて感じることができた。

さらに、今回のプログラムを園全体で共通理解を図りながら進めたことで、職員一人ひとりが子どもの育ちを同じ視点でとらえ、学年を超えて協力し合う機会が増えた。職員間の連携が深まり、園全体が一つのチームとして子どもたちの成長を支える意識が高まったことも大きな成果である。保護者からも子どもたちの成長を喜ぶ声が多く寄せられ、子ども・保護者・職員が一体となって活動を楽しみ、園全体にわたる一体感が生まれた。

また、地域の太鼓連盟との継続的な交流を通して、子どもたちは地域文化に親しみをもち、「もっと太鼓を続けたい」と話す姿も見られた。

本物に触れる経験は、子どもたちの興味を園内だけで終わらせることなく、地域へと視野を広げるきっかけとなり、地域文化の継承や地域とのつながりを育む活動へと発展する可能性を感じた。さらに太鼓だけでなく、様々な楽器・音に関しても興味が深まっていることを感じることもできた。

今後も子どもたちの興味や気づきを丁寧に受け止め、本物との出会いや地域とのつながりを大切にしながら、子ども・保護者・地域・職員がともに学び合い、育ちあえる環境づくりを継続していきたい。